

- ① 難聴支援・治療センターがより良い聞こえを支援します。
・新年のご挨拶
 - ② 教えて！この言葉「心不全」
・新任のご挨拶
・ナディック通信
・病院からのお知らせ
- ・ボランティアさん募集
・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い
・禁煙のお願い
・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ最高水準の医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111（代表）

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーがご覧いただけます

TOPICS ① 難聴支援・治療センターがより良い聞こえを支援します。



2021年7月、名大病院は地域の難聴患者さんやご家族、医療者の支援を目指して「難聴支援・治療センター」を開設しました。難聴のリスクや当センターの開設理由、またその特色などについて曾根三千彦センター長に伺いました。

当センターでは、軽度・中等度難聴の方への補聴器提案、高度難聴の方への人工内耳手術などを行うほか、耳鳴りについては急性難聴やメニエール病など原因となる疾患を正確に診断し、適切な治療に結びつけています。検査には当院が世界で初めて使用した高度なMRIを用い、北海道から患者さんが来院されるなど、画像診断技術の高さに定評を得ています。

当センターでは、耳鼻いんこう科だけでなく小児科、脳神経外科、脳神経内科、老年内科などの医師も参加し、情報共有をして診療にあたるほか、言語聴覚士によるリハビリテーション、聴力検査技師も加えた症例検討会などを行い、より良い支援・治療をめざしています。今後はさらに診療所の先生方との連携を強

世界初のMRI画像検査をはじめ適切な診断・治療を提供

聞こえの悪さが交通事故や認知症のリスクに

皆さんは耳が聞こえにくいと感じたとき、医師に相談していますか？日本は欧米に比べ、聞こえの問題で受診される患者さんが少なく、補聴器の利用も普及していないのが現状です。実際、ご高齢の方の中には「年のせいだから」とあきらめ、困っている方も少なくありません。他の疾患を診ている診療所の先生方も、高齢者の難聴に対して判断しかねている場合もあると思います。

聞こえの悪さはさまざまな問題につながります。例えば、車が接近しても危険を察知できなかったり、コミュニケーション能力が低下することや認知症のリスクが上がったりなどということがあります。医師が治療法を説明しても患者さんに聞こえておらず、後々問題になることもあります。当院では、こうした問題を解決するために患者さんだけでなくご家族、医療者も支援しようと、難聴支援・治療センターを立ち上げました。



もし、聞こえない、聞こえにくいと不安を感じたら、まずはお近くの耳鼻咽喉科をおたずねください。お子さんや若い方はこちらなのですが、ご高齢の方もあきらめずに診察を受けましょう。

難聴は目に見えない障害といわれ、聞こえが悪いためにスタートラインにも立てず、本来の能力を発揮できない方が大勢いらっしゃると思います。しかし、補聴器や人工内耳という手段によって乗り越えることができる障害でもあります。そのため当センターでは、正しい情報を広く発信するほか、ご本人の意思を尊重した上で、的確に治療手段や今後の可能性を提示し、その方が持つ能力を発揮できるようお手伝いしたいと考えています。そして、今後は難聴に関する情報拠点として診療所を支援するとともに、患者さんのご要望に合わせて機能を充実させ、地域全体の難聴診断・治療のレベルアップを図っていきます。

難聴を乗り越えてご自身の持つ能力の発揮を

化し、補聴器専門店とも協力して患者さんの情報をフィードバックすることで、より良い聞こえをサポートします。

新年のご挨拶



病院長 小寺 泰弘

新年明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の第3波に続いて重症患者数では最大規模の第4波、そして感染力の高いデルタ株によって感染者数が最多となった第5波の直撃を受け、大きな貢献をした名大病院は秋口まで通常通りの診療ができない状態でした。一方でワクチン接種が進み、東山キャンパス豊田講堂での職域接種をはじめとして、愛知県の大規模会場での接種を含め、ワクチン接種にも積極的に協力しました。高齢者の重症例が激減し、本原稿執筆時には、院内のコロナ陽性患者がゼロの状態が続いています。

そのような状況の中で、世界的な病院機能評価であるJCIのモックサーベイ（模擬審査）が粛々と行われ、部分的には高評価を受けつつも多くの課題が提示されました。熱心にご協力いただいた職員の皆様方に、改めて深く感謝いたします。2月の本審査にむけ、職員一丸となり、引き続き努力を続けてまいります。

今年はある程度日常が戻り、with コロナとしての診療体制の工夫が問われる年になりそうです。本年も何卒よろしくお願いいたします。



事務部長 永家 清考

新年明けましておめでとうございます。2022年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年も、新型コロナウイルス感染症の流行により、医療機関は多くの対応を求められた1年でした。

本院は、当地域の中核病院としての役割を果たすべく、地域の医療従事者等に対してのワクチン接種、コロナ患者専用病床の設置・受け入れ、県立愛知病院への医師派遣等、新型コロナウイルス感染症に関する様々な対応を行ってきました。また、高度急性期医療を担う病院として可能な限りコロナ以外の日常診療も止めることのないよう努めてまいりました。

この両立は大変困難なことでしたが、患者さんやそのご家族の皆さんのご理解・ご協力、職員の方々の弛まない努力、自治体からのご支援により、何とか持ち堪えることができました。

今年も引き続き厳しい病院運営を強いられると思いますが、教職員の総力を結集し、あらゆる経営改善に取り組んでまいります。引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。



看護部長 藤井 晃子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染症、集中豪雨などの自然災害が次々と私たちに襲いました。心休まるときがない状況が続いておりますが、そのような中でも、多くの皆さまから私たち医療従事者に対し、温かいご支援やご声援をいただきました。深くお礼申し上げます。あらゆるものを取り巻く環境が目まぐるしく変化し、将来の予測が困難な状態が続いておりますが、私たちは「診療・教育・研究を通じて社会に貢献します」という当院の理念のもと、また、「愛（やさ）しく、温かく、安全な看護実践をめざす」という看護理念のもと、皆さまが安心して医療を受けることができるよう、医療・看護サービスの向上に努めてまいります。

この新しい年が、皆さまにとって良き年となりますよう心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

病院からのお知らせ

提案書からの改善報告

本院では、患者さんへのサービス・アメニティー等の満足度向上を目指し、患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函された提案書のご意見から、サービス改善策を検討し実施しています。

現在、1ヶ月あたり約50件のご提案をいただいております。提案書は、回収次第、現場で対応を進めるとともに、その後開催される委員会にて1件ずつ検討することで、院内のサービス向上に努めています。

サービス改善における主な対応については、外来棟1階中央待合ホールに設置されているモニターへ掲示しております。

患者さんが利用する設備や機器などは、日々の点検や定期的な更新を実施しておりますが、2021年度上半期では、特に以下の改善を実施しました。

〈院内における主な運用面の改善〉

- 1) 病棟食堂入口の利用時間、使用方法などの掲示更新
- 2) 院内放送の頻度、内容の一部更新
- 3) 業務支援室による手荷物カートなどの定期点検の開始



▲車いす等は正面玄関で借りられます

新任のご挨拶

乳腺・内分泌外科長／教授 増田 慎二

この度、令和3年10月1日付で名古屋大学医学部附属病院乳腺・内分泌外科長／教授を拝命いたしました。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。



当科は、乳腺疾患の診断と集学的治療（外科治療や薬物療法など）と甲状腺・副甲状腺・副腎などの内分泌疾患の外科的治療を主に担当しています。乳癌は女性がんの中で最多ですが、適切な治療で良好な経過が期待できます。女性のトータルヘルスケアに留意しながら、一人一人に最適な個別化治療を提案して

教えて！この言葉

心不全

循環器内科長 室原 豊明

心臓は全身に血液を送り出すポンプとして一生涯休むことなく働いています。一般向けに心不全とは、『心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気』と定義されています。

一言で「心不全」と言っても原因や症状は人によって様々です。心臓の筋肉を養っている血管である冠動脈が詰まってしまう心筋梗塞や狭心症、動脈硬化や塩分の摂り過ぎなどが原因の高血压症、心臓の中にある逆流防止弁が障害される心臓弁膜症、心臓の筋肉自体に異常が起こ

る心筋症や心筋炎（新型コロナウイルスのワクチンで問題になっています）、拍動の数やリズムが悪くなる不整脈、先天的な心臓病、肺高血圧症など、様々な疾患が原因となって進行していく過程で生じます。

心不全になると、心臓から十分な血液を送り出せなくなり、体に必要な酸素や栄養が足りなくなるので、坂道や階段で息切れがしたり、疲れやすくなります。腎臓に流れる血液が減って尿量も減り、水分が体内に貯留してくると、足やスネ、顔がむくんだり、体重が1週間で2～3キ

ロ増加したりします。さらに進むと、腹部膨満や、呼吸が苦しくて横になれない「起坐呼吸」、夜間に息苦しさで目が覚める「発作性夜間呼吸困難」、といったような状態になります。息切れや足のむくみは、心不全の初期症状の可能性があるので、これらの症状が出た際には、専門の医療機関の受診をお勧めします。

治療は、まず生活習慣の改善指導と薬物治療を行います。薬は数種類を患者さんの状態に応じて調整します。心不全に対する薬は、患者さんに合わせた慎重な微調整が必要です。心不全は良くなったり悪くなったりを繰り返しながら悪化していく病気であり、上手に付き合っていく必要があります。そのためには、①内服薬を必ず継続する、②食生活に気を付

ける、③日頃の自己の健康管理を行う、の3つが重要です。心不全に対しての薬は種類が多いですが、継続を自己中断しますと急に悪化しますので、必ず医師の指導通り服薬を継続してください。食生活に関しては、塩分の制限が最も重要になります。塩分を取り過ぎると体内の水分量が増えて心臓に負担がかかり心不全が悪化しますので、1日6g未満を目途にすることを心掛けて下さい。また、風邪など他の病気を発症すると、すぐに悪くなることがありますので、日々の状態をご自身で管理する必要があります。ご家庭でも血圧や体重を記録するなど、心不全悪化の兆候が出ていないかチェックするようにしましょう。

■ ボランティアさん募集

当院ではボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



★ ボランティアホームページ
<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/recruit/volunteer/>
 『名大病院 ボランティア』で検索♪

Nagoya Disease Information Center ナディック通信

ナディックの利用休止について

患者情報センター（広場ナディック）は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用を引き続き休止しています。

それに伴い、毎月開催していましたが教室（手作り、ちぎり絵、折り紙）は当面の間休止。患者の集い、認知症サロンなどの患者さん向けのイベントについても次回の開催予定は未定です。

肝臓病教室についてはオンライン（動画配信）で再開する事になりました、詳しくは病院もしくは肝疾患診療連携拠点病院のホームページ（<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kyoten/liver/>）でご確認下さい。

がん患者さん向けの「ウィッグ・頭皮ケア相談」については外来棟1階「地域連携・患者相談センター」にてがん相談員が随時対応しております。

（問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663）



肝疾患診療連携拠点病院ホームページ



■ 禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟各階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL： <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QRコードでもアクセスできます！

